

No.1983

10月17日例会 プログラム 「ヤマタイ国論争その後」 三宅 一昌君

10月24日例会 プログラム 「アフリカよもやま話」 林 実君

10月17日のメニュー ・シイタケとピーマンの肉詰め ・蓮根のはさみ揚げ ・きつねうどん ・さつまいもごはん ・コーヒー

前回(10月10日)例会記録

出席報告	会員総数	32名(内出席規定適用免除者1名)	出席者数	21名	欠席者数	10名	出席率	67.74%	前回補正率	-
	前回補正者	-								
	欠席者	東川君 林君 井上君 岸本君 仲田君 大久保君 小野君 立石君 植田君 山田(次)君								

会長挨拶

本日の挨拶として避けて通れないのは、ノーベル賞の受賞の事でしょう。ノーベル物理学賞の南部氏、小林氏、益川氏、の3名の方に続いて、ノーベル化学賞の下村氏と立て続けに4名の方が受賞されました。1年間に4名もの受賞とは、驚きと共に日本の誇りと思います。両賞とも評価された業績は1960~1970年代の研究に対してであり、その意味では若い研究者が伸び伸びと研究できる環境を整える事が必要だと考えさせられます。

会長報告

- 先週の理事役員会で、7名の方が新会員加入候補者として承認されました。異議のある方は、1週間以内に文書にて事務局、又は会長・幹事にお知らせ下さい。

幹事報告

- 本日地区大会の登録料を集めさせていただきますのでご協力よろしくお願い致します。
また、10月26日(日)の地区大会ではバスにて会場へ向かいますが、出席予定者の方々にはバス送迎時刻表を本日配布させて頂いておりますので、乗車時刻と場所をご確認願います。
- 鳥居ガバナー事務所より地区大会のプログラム(案)が届いておりますので本日配布させていただきます。
- 鳥居ガバナー事務所より2008-2009年度 地区研究グループ交換(GSE)送別会並びに壮行会のご案内が届いております。

日時：2008年10月29日(水)17:20 受付 18:00 開宴、 場所：ルネスホール岡山

- RI 第2690地区第10・11グループガバナー補佐より2008-2009 I Mのテーマ「食と環境」についてのアンケートのお願いが届いております。
- 国際ソロプチミスト玉野より国際ソロプチミスト玉野会報 No.18 が届いております。
- 第19回たまの人形劇フェスティバル実行委員会より協賛の依頼書が届いておりますので次回理事会にて審議させていただきます。
- 他クラブの週報・例会変更通知は回覧させていただきます。

委員会報告

- 親睦・家族委員会(岡真司委員長)：11月23日に、親睦家族委員会と職業奉仕委員会のコラボで家族会を開催したいと考えております。参加可否につきましては、10月24日(金)までをお願い致します。

家族会

日時：11月23日(日) 行き先：万富キリンビール工場、備前焼工房、日生五味の市

行程：9時30分、玉野市役所前を出発し各所でメンバーを拾い、ビール工場など廻り17時頃着

会費：後日、参加人員確定後、ご連絡。

- ハイロー会(谷口ハイロー会幹事)：本日回覧を回らせて頂いておりますが、4クラブ合同チャリティゴルフコンペが開催されます。多数の皆様にご参加頂きまして、優勝を目指したいと思います。宜しくご協力の程、お願い申し上げます。

4 クラブチャリティゴルフコンペ

日時：11月3日(月)祭日 10:00～ 場所：玉野ゴルフ倶楽部

スマイル・ボックス

- ・三宅(孝)君 - 三宅保昭様、お花をいつもありがとうございます。
- ・渡邊君 - 100%出席ありがとうございました。
- ・島田君 - 遅刻。 ・三宅(照)君 - 早退。 ・大西君 - 早退(小学校検診の為)

プログラム 「イニシエーションスピーチ」 安江 義輔君

本日は入会のイニシエーションスピーチという事ですので自分の職業について自己紹介としてお話させていただきます。

先程、当社の経歴書(日本特殊炉材株式会社)を配らせて頂きました。

・業種と主要得意先

業種は不定形耐火物製造で、現場において流し込み、こて塗り、吹き付けなど状況に応じた施工方法が選択できる耐火物で、れんが積みのような熟練作業が要らないのが特徴です。主要得意先は、日本全国の製鉄所があります。当社は、コークス炉部門におきましては、新設、補修用のモルタルはもちろん、メンテナンスなどの補修技術におきましても日本屈指ではないかと自負しております。

なかでも、耐火モルタルでは日本トップのシェアでございます(19年度)。新設コークス炉用特殊耐火モルタルは中国品のモルタルに対して倍以上の値段ですが、新日本製鉄におかれましては名古屋、大分、室蘭などのコークス炉新設の際に使っていただいております。

耐火煉瓦、不定形耐火物全般で見て、7割近くが鉄鋼分野の仕事になっており、当社も同様であります。

・コークスについて

関西熱化学(株)加古川工場という、神戸製鋼所加古川製鉄所にコークスを供給している会社のコークス製造のビデオをご覧ください。その後、ビデオによる説明

動画の中で説明がございましたように、鉄を作るためには、コークス炉で作られたコークスと、鉄鉱石と石灰石を溶鉱炉に入れるわけです。鉄を1トン作るのにどれだけのコークスと鉄鉱石が要するのかというと、鉄鉱石は1.5、石灰石が0.2、コークスが0.5の2.2トンを投入いたしますと、この溶鉱炉で1トンの鉄が出来るという事です。現在、鉄の生産はフル操業でコークス増産が至上命令でありますので、コークス炉のメンテナンスに大変苦勞をされております。その上に、日本全国ではコークス炉が60門近くありますが、その内、耐用年数を超えて、40年以上のものが多いため、私どものメンテナンス技術と補修用製品がお得意様に大変ご評価頂いております。

・世界の鉄鋼生産量

次に全世界的な鉄鋼生産を眺めると、日本の粗鋼生産量が2007年度で1億2千100万トンとなり、34年ぶりに記録を更新したという事ですが、中国産が昨年、今年の2年間で1億トンも増えて年間5億トン超になる状況です。2008年の粗鋼生産見込みは14億トン程度であります。そのうち5.4億トンが中国ということになります。人口が多いのはわかりますが、2003年が2.2億トンであったのが2006年には4.2億トンになったことを考えますと、どう見ても増産程度が異常な状況にあると考えられるわけでありませう。

このように中国が急激に生産を上げるものですから、鉄鉱石、石炭の確保が緊迫してございまして、今年は原料炭が3倍、鉄鉱石はブラジル産が1.7倍となり、オーストラリア産はブラジルと同じ値段にしるという事で約2倍に上がりました。結果、鉄鉱石も2倍という状況です。

・日本の鉄鋼生産

日本には高炉を有する一貫製鉄所が13あります。粗鋼生産量では1位が福山、2位が君津、倉敷が3位で、4位は大分です。その後、鹿島、和歌山、神戸製鋼所加古川、名古屋と続きます。福山と倉敷を合わせると全国の二割近くを生産する大製鉄所がこの近辺にあるという事です。ビデオにもございましたが神戸製鋼所加古川では年間300万トン以上のコークスを使用しております。このように大型製鉄所は名古屋以西に多いことがわかります。

世界で、自動車向け高級鋼板を作ることができるのは、日本の大手4製鉄会社とポスコ(韓国)、宝鋼(中国)アセロールミタル(ルクセンブルグ)、USスチールなどです。船で使われる厚板なども非常に高級で日本の特色が生かせる分野です。

このためしばらくは日本の鉄鋼生産は落ちないと言われておりますが、中国の鉄鋼輸出量が年間5千万トンもありますので、1億2千万トンしか作っていない(それでも世界第2位ですが)日本向けに、安い品物が入ってきたらどうなるのかという事が心配です。

これから先も、鉄鋼の動向を見ながら、当社の方針を決めていかねばと思っているしいです。
ご静聴ありがとうございました。